



“源溪山だより”

<https://chouanji.p-kit.com/> 令和8年4月②
住職 恩田仁志 gen-chouanji@aka2.gmob.jp



◆恒規法要を行いました

19日、長安寺恒規法要をお勤めしました。

恒規法要とは、各寺院において、定められた日程に基づいて毎年行う大般若祈禱会や施食会法要のことです。



長安寺では、少なくとも昭和40年代までは、曜日に関係なく4月15日に行われていました。

なぜその日だったかは不明ですが、御開山季雲永岳禪師のご命日が2月15日だったからではないかと考えています。ただし2月は雪の中ですので、時期をずらした4月になったのではないかと思います。

◆大般若祈禱会 「心願成就を」



テレビでもよく拝見する脳科学者の中野信子さんは、「とにかく祈る。祈ることは、心と体の健康にプラスに働く」と言います。運のいい人はポジティブな祈りをしているとも言われます。

当日は、みなさまの思いを受けながら、御寺院方が大般若経を転読してくださいました。



◆施食会 「徳を積みました」

甘露門というお経をお唱えし、各家のご先祖さまや縁のある精霊はもとより、日ごろ供養を受けられない餓鬼仏や無縁仏にもお参りのみなさまとともに食を差し上げました。

供養をいつも受けているご先祖さま方と違って、餓鬼仏様、無縁仏様は、常に飢えている存在です。ご先祖さま方に供養をしても、お腹を空かせた霊が指をくわえて横から見ていたら、ご先祖さまも落ち着きません。私たちも、そういう状況に置かれたら、せっかくのご馳走も味わうことができません。そこで、ご先祖さま方に差し上げるように、餓鬼仏無縁仏にも食べ物や飲み物を供養します。



なお、餓鬼に施すと書く施餓鬼という言葉もよくご存じと思いますが、曹洞宗は施すものと施されるものの間に尊卑尊賤があってはならないとして、昭和63年より「施食会」と呼称することになりました。

～^{じき}食平等の優しさを～

また、施食会のお勤めをすることは、私たち自身のためでもあります。

「自分だけが美味しいものを食べられればよい」「自分だけがよい思いをしたい」というのは餓鬼のはじまり。「美味しいものはみんなで仲良く平等に」という「^{じき}食平等」の優しさをあらためて教えてくれるのも、この法要の大事な意味です。